GyouseiNews.Com
The Gyousei Chosa Shimbun
行政調査新聞

川越市新斎場建設基本設計業務　公募型プロポーザルは噴飯もの！「実現可能性がないもの」を設計しても何の意味もなし 市民を馬鹿にするのもいい加減にしろ！

（2012 年 8 月 4 日）

さる 7 月 6 日、川越市は「川越市新斎場建設基本設計に係る公募型プロポーザルの実施について」と題し、新斎場建設基本設計業務に関する委託業者の選定を公募型プロポーザル方式により実施すると明らかにした上で、実施要項など関連文書を公開した。

一次審査結果の通知は、8 月 3 日に業者に送付されるようだ。

あの変則的な予定地に、高さ 16m 前後の鋸の歯のような 2 階建て建物の設計を求められるわけだから、業者もさぞ頭をひねることだろう。どんなに建築物の意匠をこらしてみても、最早、周辺環境に調和した建築物の設計など望み薄だろう。

しかし、ここで注意していただきたいのが 7 月 23 日開催の「川越都市計画火葬場の公聴会」における、反対地権者M氏の公述における発言だ。

「大字八反田 809-1 は隣接地権者である私の境界立ち会いの合意が無ければ分筆できず、将来的にも合意しない。さらに、M氏所有の土地と市の道路・水路との境界測量にも決して応じない」

公述の際にM氏が使用したプレゼン内容は本紙 Web サイトに掲載しているので、ご確認いただきたい[1]。市民諸氏は、この内容をどう受け止められるだろうか？

これは、**M氏の公述により、現在の予定地形状（敷地面積約 18,100 ㎡）での用地買収は不可能であることが、公の場で明らかにされた**ことを意味している。

果たして、二次審査受付で特記仕様書の内容変更は行われるのだろうか。本紙は 8 月 3 日現在、そのような情報を耳にしていない。

もし、市が内容変更を行わず、このままの敷地面積で進めるようなことがあれば、実現の可能性が無いものを設計することとなり、2,500 万円の設計業務費はドブに捨てられることになるのだ。

川合市長は来年 1 月の市長選に向けて、事業推進の体裁さえ繕えれば、市民の血税を虚構の設計に投入しても一向に構わないつもりなのか。であるならば、それは市民への重大な背任行為に相当する。これらを市民が安易に納得するとでも考えていたのなら大間違いだ。

「政治とは・行政とは何か」を学びとることができない、素人市長の視野狭窄による独断と偏見。私たちは、こうした市民感情を無視した自己保身本位の人間

[1] http://www.gyouseinews.com/pdf/2012072302.pdf

に、川越 35 万市民のリーダーとしての資格を与えたことを恥ずかしく思う。

同じ弁護士出身者とはいえ、大阪市長と川越市長の政治力・知力の差たるや雲泥の違いであることを悲しいかな、改めて自覚した。

一刻も早く川越市長の座よりお引き取り願いたいものだ。■